

令和3年度第1回大阪府立江之子島文化芸術創造センター指定管理者評価委員会概要

日時：令和3年6月7日（月）15：00～16：30

場所：オンライン

※傍聴場所：大阪府咲洲庁舎 35 階 共用会議室

出席者：服部委員長、佐藤委員、坪池委員、西田委員、米山委員、指定管理者、事務局

【議事概要】

1 開会

2 議題

(1) 評価の方法及び実施時期について

(2) センターの運営状況及び評価基準（案）について

3 閉会

◎主な意見等

服部委員長 : センター運営状況及び評価基準について委員の皆さんのご意見を交わしたい。ここで議論しながら新しいアイデア等々を次につなげていければなと思っているので、忌憚のない意見をいただければ。

西田委員 : 数値目標以外に定性的な面についても、しっかり見ようということだと思う。経済界でも、緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置で、セミナーや人材育成事業など、オンラインを使っても、やはり受講者の数は減っている。貸会議室事業なども enoco と同様に4月5月に壊滅的な打撃を受けていて、大変だというのは同じ思い。

今はコロナがあるので、いろいろな活動がやりにくいと思うが、オンラインを上手く活用した広報や、Twitter、インスタグラムなどをどのように盛り上げていくかについては、ある意味逆にチャンスだと感じている。その辺りが上手く目標達成されていけばいいと思う。

大阪市内でもまちづくりを民間企業がやっというなかで、アートや芸術というのを活用したい、というような話もある。そういう意味では、enoco のような拠点がないと民間事業者だけ、地域の人たちだけでは、なかなかそういうところまで辿り着けないのかなと思っている。

発信力の強化と合わせて enoco のファンづくりなどはしっかりとやっていく必要があると思う。人材育成面も、事業の実施をするなかで、人材育成が上手くできているか、あるいは既存のネットワークなどを上手く活用できているか、それを資産として残していけるか、ネットワーク自体が、実際どの程度のもので、どの程度のすごさなのか。ネットワークが文化芸術や、まちづくりの世界のなかで、本当に評価されているかを見ていく必要がある。

服部委員長 : この10年間でどのくらい成果が上がっているか、それ以前は恐らく定量ということで評価基準が進んでいたと思う。そこから、コロナ以前に関しても、定性評価という新たな評価基準を我々委員でも検討してきたが、コロナになって、より評価軸を変えていかなければならないと考えると、今回 enoco の事業内でネットワークの樹形図を作ることなので、この樹形図が、拡張性の高いネットワークになっているか、若しくは芸術文化振興に対して、この社会や世界のなかのカテゴリーとして、どういった位置づけにいるのか、ということが割と可視化されているのではないかと考えている。これがつながっていない所とは、今後つながっていくべきなのか。若しくは、専門的にそこを突破していくのか、これが10年目で現指定管理者の運営が、最終年度となるので、次年度にどういったバトンを渡していけるか。ということに、生きてくるのではないかと。

佐藤委員 : コロナの影響などで、思い通りいかないこともあると思うが、そこは、臨機応変にその場でやれることを考えて行動しているのだろうかと思っている。

知名度について、先ほど、小学生の楽しそうな写真を見せていただいたが、地元での知名度はかなりあり、圧倒的なのかなと思うが、阿波座を離れたときの知名度がどうなのか。知名度に関しては、今 YouTube などにあげている動画とか、そういったものが、例えばお子さんがいるご家庭の人や、グループホームに関わる人などの目に留まり、みんなで一緒にこれやってみよう。という風になれば、知名度も上がるかもしれない。グループホームの方々などは、後々 enoco に来館してくれることもあると思うので、動画を努力して配信しているのが目に留まって、少しでも知名度が上がったらよいと思う。

服部委員長 : 毎年、知名度については話をしているが、アートというか文化芸術創造センターという括りで考えると、コロナ以前というのは地域貢献というのが、すごく命題になっていたように思う。周辺の地域貢献という意味でもアートを活用した地域貢献というものに徹底されていたという気がしている。ただ、コロナ禍においてという話しになると、この2年で様々な世界のこういう芸術センターがどういう風になっているかということ参考にしてみるといいかも知れない。学びのスタートの段階から、オンラインで興味を持っていただく、例えば、教育キットみたいな物を郵送して、オンラインで、勉強会を実施している芸術センターもある。なので、学びのスタートをどのような形で表現しているか、YouTube 動画で分かりやすく表現する手法というのきつとある。単純に YouTube をよく観ている人を対象とするだけではなく、むしろシニアのあまり YouTube を観なかった人たちにも、観ていただけるような方法を、少し持っておかないといけない。今後必要なのは、地域の知名度に加え、もしかすると、ということになるが、この10年たった文化芸術創造センターの立ち位置みたいなものをもうちょっと世界に広げてみていってもいいのではないかなと思う。遠隔情報を届けていくには、その専門性の豊かな方たちとのネットワークがなければなかなか難しいとは思う。例えばそういった専門誌や、専門の方たちとのネットワークがどれだけあるかということも問うタイミングなのではないかと思う。

米山委員 : 評価について定量的なものだけではなく、定性的なものというのは大変よいと思うが、来館者数にしても、「正常な年」「正常な年」「異常な年」を平均して、これが果たして目標数値にしていいものかと思った。例えば今年度も4月と5月は、ほとんど来館者がいないと思うので、現実問題として、数値目標の決定方法の妥当性に疑問がある。定性要因を評価するというのは、非常に意義のあることだと思うが、無理な数字を目標にしても現実的ではないし、かといって達成できる数字をあげても、それは目標にもなり得ないので難しいが、示されている数値が目標数値足り得るとはちょっと思えない。

オンラインとオフラインを足してハイブリッド型でやっていく、その流れでオンライン鑑賞会やコレクションキャラバンというようなことが出ていたので、すごくいい活動だと思う。ただ、オンラインだけでも駄目だと思う。正常化した段階でどうやってセンターに来てもらうか、というところに重きを置かないと、「施設自体が要らない」という話しに将来的になってしまうと、非常に残念。周辺の地域、マンションや病院との連携、模擬店や屋台等を出して活動していたものが、コロナで砕かれてしまったようなところがあるが、そういった活動も含めて運営していくには、場所の維持というのを図れるようにしていかないといけない。

YouTube というのであれば、いわゆる YouTuber と言われる方が大変流行っている。いろいろな形があると思うが、そういう人に取り上げてもらうことで知名度が上がるのではないかな。何らかの形で取り上げてもらうことで、興味本位だったものが活動内容を理解していただいて、こういう事をやってみようとか、こういう事をやってほしい。というところにつな

がらないかなと思う。

収入の面について、現状としては、なかなか難しい数字なのかなと思うが、次回の評価委員会の頃には、数字も固まってきていると思う。定性要因を重視するというのは非常に重要だとは思いますが、定量的な部分もきちんとした根拠というか、達成可能な目標となりうる数字というのも非常に大事なのではないかなと思う。その辺りを現状の達成度と勘案して、去年の数字を上回れば、それでいいのではないかな。と数字的には正直思う。

服部委員長 : この定量的の話し、正常な時と今回のような比較対象の話しについて、大阪府文化課からの意見は。

文化課 : 今回目標値を設定した時には、これまでずっと同じ指標を用いて、計算をしていたということで、コロナについても踏まえつつ、これまでの実績で、できるだけ、大きく目標を設定したほうがよいと思い、直近3年間の実績値を平均する方法で設定した。

服部委員長 : そもそも高い目標数値ではあるが、達成しなくてもよいという話しになる訳か。

文化課 : 昨年度の評価委員でもご指摘もいただいたところであり、すべてが定量だけということではなく、定性的にということも含めて全体として評価していくというのが、重要だと考えている。これまでの数値をもとに設定した数値としては、昨年度程度ということではなくて、できれば、それを上回るような設定をしていくべき、ということで平均をとった。

米山委員 : 定性的なもので、オンライン鑑賞会やコレクションキャラバンなどのひとつひとつの実績が次の5年 10年 20年と、enocoの場所的なものも含めてつながっていくようなものであれば、十分評価に値するのではないかなと思う。私としては、数値目標は、今年(置いておくといけないが)置いておいて、コロナが収束し、正常な状況に戻ったときは、リスク対応をしつつ、地域に根差して文化や芸術が enoco を中心に広がっていく礎となるような施設になればいいのではないかなと思った。

服部委員長 : 今後、芸術文化や観光もそうだが、もっと少数化・単一化すると考えられる。そうすると、体験の質というようなことをどのように評価するのかというのが、今後出てくるのではと思う。体験の質を数値化するのは、難しいことだと思うが、コロナ禍においてアンケートの調査というのは、すごく重要。個人個人がどういったことを考えていたか、どういった体験で得られた学びだったのか、フィードバックを受けることが非常に大事。

来場者数などは、明確に出てくる数字だが、カッコ付きで「コロナ禍の場合」「平常化した場合」という数値の目標があってもいいのでは。数値を測るためにも、バックデータとして、アンケートによる調査をどれだけ多くできるか、そのデータ自体で、樹形図を描いたとき、どれくらい太いパイプでつながっているかというのが分かるのではないかなと思う。アンケート調査のようなものをポストコロナのエネルギーに変えて、次の運営をしていくのもひとつなのではないかなと思う。

坪池委員 : 文化課に伺いたいが、指定管理を2年間延長するということは考えているか。

文化課 : 現在のところ延長は検討しておらず、通常通りの5年間単位でやっていくという考え。

坪池委員 : 府全体の指定管理の方針と関わることなので、enocoだけの議論では収まらないと思うが、コロナ禍でこの2年間まともに活動できず、ここまで長期間影響が続くと誰も思っていなかったと思う。結局ワクチン接種が終了するまでは、この試行錯誤の状況が継続する。今年度中、少なくとも年末くらいまではこの状況が継続すると思えざるを得ないと思う。その中で、第2期で指定管理期間満了の年に相応しい次の10年云々の評価を評価軸に入れるのかということもナンセンス。5年間のうち2年間活動できず、10年の集大成と位置付けていた2年間が白紙状態のなかでそういう評価軸を入れることは、あまり意味がないのでは。少なくとも正常に戻るまで、指定管理の仮延長を議論されてもいいのではないかな。

この状況のなかで、次の指定管理に手を挙げるところも、混乱の極みのなかで手を挙げなければいけない。これまでは、利用料金制が、指定管理者にとっても、施設設置主体者にとっても、事業の活性化・自由度増加、空間資源の利活用の利益によって運営ができる。というような双方に利点があると捉えられていたが、この緊急事態のなかで、利用料金制自体についても賛否がある。

もうひとつ、いろいろな所で見直しが行われているのは、スタジオ機能の強化面。今後、こういった感染症や、人が集まりにくい状況になることが、今回のコロナだけではないと考え、インフラとして配信機能を強化していくということも考えていくほうがよい。そうすれば実施できる事業内容も変わってくると思う。

大阪中之島美術館のオープンに関して、府が持っているコレクションをどう整理するのか。これも enoco の事業に大きく影響してくると思う。

対話型鑑賞会の配信やオンライン鑑賞会はとてもよい。コロナ禍で、(ネガティブな影響を受けたが)オンライン型事業のハードルが下がったことは、ポジティブな側面だと思う。

オンライン鑑賞会を大阪府内の学校教育のなかに定着させるには学校との関係が必要。enoco と府で議論をし、オンライン型鑑賞会を美術系のプログラムに組み入れていくための工夫や、enoco に足を運ぶことが難しい人たちに対して、コレクションを公民館や高齢者施設など、美術館以外のところでどうやって提供していくかを真剣に考えるべき。

コロナ禍のような緊急事態におけるオペレーション能力ということに関して、設置主体も指定管理者も評価委員も、もう少し頭を柔らかくして議論したほうがよいのではないかと思う。集客事業、貸館議論ではないところでの事業の目標設定の在り方も考えてほしい。

enoco はワクチンの接種会場として手を挙げる気はないのか。そういったことに館を活用するというのが、緊急事態のオペレーションということ。

服部委員長 : 同じような災害がやってくる可能性もあり、機能の在り方を再考すべきというのはまさしくそうだと思う。オンライン対応が当たり前だと考えていくと、その施設自体の在り方は、飛躍的に変わるはず。来館者への体験の質感を上げるにはどうしたらよいか、遠隔地の人たちにどういった情報を届けるべきかという議論があるべきだと思う。「enoco の万博」を名乗っての事業が予定されているが、そこであがる棚卸の内容は、見どころだと思う。

コロナ以降アーカイブの価値が変わると思う。デジタルデータとしてアーカイブされる意味合いも、変わってくると思う。そこに描かれているデータが何かというのももちろんだし、ビジュアライズされたもので、「これ借りたい」などという風にハードルを下げっていくことも、このデジタルデータでできるはず。そういったことに取組んでいくことは、すごく重要。

自主事業(まちづくり関係)の内容が民間へ少しずつシフトしているというのは、すごく可能性が高いなと思う。自治体だけでなく、社会貢献事業をやろうとしている民間事業者が増えている。今まで行政がやろうとしていたことが、民間のレベルでも社会を基盤にしながら事業を行っていく。と考えている事業者が増えれば、これこそ enoco のネットワークの価値というのが、成立するのではないかと考えている。

評価基準案を今回、修正するかどうかもありますが、全体の議論ありがとうございました。評価基準については、大阪府にバトンを渡したい。

文化課 : 以上、委員の皆さまからいただいたご意見を踏まえ、事務局で整理を行い、評価基準を公表する。